



# 株式会社東芝

## 構造改革・選択と集中

### 東芝の事業と社史（事業の変遷）

#### 東芝の源流

5

「人と、地球の、明日のために。」

これが、東芝グループのスローガンである。人間尊重を基本として豊かな価値を創造し、世界の人々の生活・文化に貢献する企業集団を目指している。そして経営理念は次の3つの言葉から成り立っている。

〈人を大切にします〉〈豊かな価値を創造します〉〈社会に貢献します〉

10

「株式会社東芝」は、資本金2,749億円、従業員数63,328人（平成11年3月末現在）、年間売上高3兆4,076億円（平成10年度）の規模を誇る総合電機メーカーである。この会社の起源を語るには、重電とエレクトロニクスの大きな2つの源流を理解する必要がある。まず、創業は1875（明治8）年7月、東京・新橋に電信機工場を創設したことに始まる。この工場は、わが国初の水車充電機や誘導電動機完成の実績を上げながら、1904（明治37）年には「芝浦製作所」に発展して日本でも有数の重電工場となった。

15

一方、1890（明治23）年、わが国初の「炭素電球」を製造する白熱舎が創設された。この国産電球の製造がエレクトロニクス部門のスタートである。のちに1899（明治32）年「東京電気株式会社」となるこの白熱舎は家電化の研究に力を入れ、わが国初の電気洗濯機・冷蔵庫・掃除機を次々に完成させていった。当時は〈マツダランプ〉のブランドで知られる電球や家電製品で有名であった。

20

重電の芝浦製作所と家電の東京電気は、戦時経済体制に入った1939（昭和14）年7月に合併し、総合電気メーカーとしての「東京芝浦電気株式会社」が誕生する。今日の「株式会社東芝」社名が変更になったのはそれから45年後の1984（昭和59）年のことである。

25

#### 歴代社長の歩み

合併で総合電気メーカーとなった東芝だったが、その6年後に敗戦を迎えることになった。戦後の東芝は他の大企業と同じように焼け跡から立ちあがったが、ここで歴史に残る大労働争議が起こることになる。当時の東芝の再建社長であった石坂泰三は、過度経済力集中排除法に

30

本ケースは経営管理の良し悪しを示したものではない。

「経営再建論」のために作成した。

ケースの内容に関する責任は作成者にある。

（許斐義信、2003年6月改訂）